

研究結果

本研究は、日本の農村金融システムの変遷と問題点を把握し、日本型農村金融システムの歴史的背景と現在の問題点を十分に踏まえた上で、中国の現行の経済発展段階のもと、その社会や金融風土に即した中国型農村金融システムの制度設計を考えたものである。具体的には、以下の研究成果をまとめた。

1. 東アジア型の特徴を有し中国との共通性を持つ日本の農村金融システムの特徴を経済発展段階と関連させて、その問題点と現状を明らかにした。その上で中国改変開放後の経済発展と金融改変の現実を踏まえて、中国型農村金融システムの再構築の青写真を提示した。分析の対象として、主に両国における協同組合組織である日本農協と中国農村信用合作社にした。つまり、この二つの協同組合的金融組織の特徴を経済発展段階と関連させて、その政策的変遷、金融機能的発展、地域的发展といった三つの方面から明らかにした。
2. 両国の農村金融機関はその利害関係者とはいかなる規律付けを仕込むべきかというガバナンスの問題を考察した。具体的に、日本の農協と農林公庫を例として、その会計制度、情報開示制度、担保と保証の問題、デフォルトに対する処理制度、利子率の水準などを考察し、その特徴と問題点から中国農村金融機関のガバナンスにはいかなる示唆を与えるかを明示した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等) :

「現代農業及び農村金融システムの構築に関する日中比較研究」・鄭蔚・南開大学日本研究院学術
芳・2007年10月18日・南開大学日本研究院国際会議報告庁

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) :

1. 「農協の早期展開：協同組合制度の移転、変質および合法化について」、鄭蔚、『日本研究』
2009年第1期, PP. 56-60
2. 「中日農村金融システムの再構築に関する比較分析」、鄭蔚、『現代日本経済』、(投稿校正中)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等) :

「中日農村金融システムの比較研究」、鄭蔚、天津人民出版社、2008年3月